

復興と文化

常態化する災後社会のなかで

聖教新聞「復興と文化」取材班 編

【本書の魅力】

災害多発時代を迎えた日本—各界を代表する識者から、災害からの「地域の再生」「復興」という大きな課題に取り組むための新たな視点や具体的な方策を探る。

作家、災害復興制度の研究者、災害復興支援の弁護士、日本障害者協議会代表、宗教学者、医師、社会学者、民俗学者、文芸批評家たちの知見を集約した。

「復興」理念の歴史的検証から震災と障害者、グリーンケア、ボランティア社会の実現まで多岐にわたり論じた。災害大国日本が、その経験と英知を活かす手立てがここにある。「聖教新聞」の好評連載「復興と文化」等に登場した識者の声を書籍化。



著者一覧

- 作家 石牟礼道子
- 関西学院大学災害復興制度研究所顧問 山中茂樹
- 弁護士 津久井進
- 日本障害者協議会代表 藤井克徳
- 東京大学名誉教授 島菌進
- 早稲田大学災害復興医療人類学研究所所長 辻内琢也
- 社会学者 大澤真幸
- 民俗学者 川島秀一
- 国際日本文化研究センター教授 磯前順一
- 文芸批評家 井口時男
- ノンフィクション作家 柳田邦男

水俣病の患者などの苦悩を描いた『苦海浄土』の著者・石牟礼道子の「聖教新聞」未収録分を加え掲載。

「知った人も、知らない人も、たくさんの方が亡くなられたんでしょう。後は何もおっしゃいませんでしたが、その沈黙のほうに、言葉に出されたよりもたくさんの思いが込められているように感じました。／決して多くは語られませんが、語られないことの中に、人間の絆がいっぱい詰まっているように思いました」(石牟礼道子・本文より)

条件・委託 ご担当者名 様	書店印	ご注文数	<h1>復興と文化</h1> <p>常態化する災後社会のなかで</p> <p>聖教新聞「復興と文化」取材班 編</p>
			冊